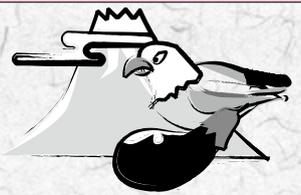


いちふじに たかさんなすび
一富士二鷹三茄子

しせんごたばころくざとう
四扇五煙草六座頭



今月の表紙を飾った富士山、鷹、茄子について、どういった意味があるのかみなさんご存じでしょうか。これは、昔から「初夢」に見ると縁起がいい、とされるものの順番といわれています。

この縁起物、一般的には「一富士、二鷹、三茄子」までがよく知られていますが、実はこれには続きがあるのだそうです。江戸時代の国語辞書である「俚言集覧」には、続きとして「四扇、五煙草、六座頭」と記載されています。ではこの並び、「富士」はなんとなくイメージ的に理解できるとしても、なぜ鷹や茄子などが続くのでしょうか。その理由について、ちょっと調べてみました。

一富士

富士山は裾野が広く伸び、いわゆる「末広がり」の形をしています。これは、子孫や商売などが繁栄していく様子を表現しており、縁起がいいとされているようです。

二鷹

鷹は、非常に高く舞い上がり、空を翔けます。この舞い上がる様子を「運氣の上昇」と捉え、縁起がいいとされたようです。

三茄子

三番目の茄子ですが、茄子はうぶ毛もなく、表面がツルつとされています。この「毛がない」という所を「怪我ない」と洒落て、一年間の家内安全を願う、ということなのだそうです。

四扇、五煙草、六座頭

では続きはどうでしょうか。実はこれも同じことの繰り返しで、「扇」は扇子のことで「末広がり」を示し、「煙草」は煙が高く舞い上がる様子を「運氣の上昇」と見立て、「座頭」は江戸時代に琵琶を演奏したり、按摩(マッサージ師)などをしていた人たちのことを指し、こうした人たちは剃髪(髪の毛をそり上げる)を指していたため、「毛がな

い(怪我ない)」ということで、縁起がいいとされたようです。

良い初夢を見るための「おまじない」

せっかくの「初夢」ですから、こうした縁起のいい夢を見たいと思うのは誰もが願うことです。

実は室町時代ごろから、初夢に良い夢を見るために良いと伝えられる「おまじない」があるそうです。当時は、先ほどの「一富士、二鷹」の縁起物はまだ成立していませんでしたが、より良い一年を願って行った願掛けです。その方法は、七福神の乗った宝船の絵に、

「なかきよの とおのねふりの みなめさめ なみのりふねのおとのよきかな 波乗り船の音の良きかな」

という回文(上から読んでも下から読んでも同じ言葉になる文章)の歌を書いたものを枕の下に入れて眠ると良い、というものでした。しかし、これでも悪い夢を見た場合には、翌朝、宝船の絵を川に流して縁起直しをすれば良いとされています。

皆さんも、今年一年が良い年になるよう、宝船のおまじないをやってみてはいかがでしょうか。

なかきよの

とおのねふりの

みなめさめ

なみのりふねの

おとのよきかな

